

演習 I

担当者 西井 進剛

開講時期 通年 単 位 4

●講義の概要

本講義の目的は、修士論文執筆のための実践的な方法論及び研究テーマに関する専門知識の習得にある。前期はテキストを用いて論文を書くための一連の流れについて学習する。後期は、学術論文及び専門書を輪読し、専門知識の習得を進めていく中で研究テーマの絞り込みを行う。加えて、修士論文の準備として、10,000字程度の論文を実際に執筆してもらう。本講義で取り扱う主な鍵概念は、「ビジネスモデル」「(地域)イノベーション」「産業クラスター」「エコシステム」である。

●講義の到達目標

修士論文を執筆するための方法論、具体的な技法について習得する。修士論文で取り扱う研究テーマを絞り込む。実際に論文を執筆することで、論文執筆のための技法を身に着ける。

●講義計画

- 第1～5回 文献検索～テーマ設定の方法
- 第6～10回 論文の構成と論証
- 第11～15回 研究計画の立て方
- 第16～20回 方法論の検討
- 第21～24回 研究計画書の作成
- 第25～30回 準備論文の執筆と報告

●成績評価基準と方法

- ・授業内でのプレゼンテーションの評価 (40%)
- ・ダイアログ、ディスカッションへの参加度 (30%)
- ・準備的論文 (30%)

●テキスト又は参考文献

講義で用いるテキストについては、以下の通り。

- ・伊丹敬之 (2001)『創造的論文の書き方』有斐閣。
- ・戸田山和久 (2022)『最新版 論文の教室』NHK出版。
- ・野村康 (2017)『社会科学の考え方』名古屋大学出版会。

学術論文及び専門書については、受講生の関心に応じて決定する。

●受講上の留意点

毎回の講義において、レジユメの作成や課題に応じたプレゼンテーションを課す(評価割合40%)。そのため、テキストはもちろんのこと、関連資料等を事前に読み込んでからゼミに参加することが求められる。加えて、ゼミ内でのダイアログやディスカッションへの積極的な参加が必須となる(評価割合30%)。準備的論文では、修士論文の執筆を想定し実際に論文を作成してもらう(評価割合30%)。